

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は 発表学会等の名称	概 要
(著書(欧文)) 1.				
(著書(和文)) 1. 『岩井市史資料 近世編Ⅰ』	共著	1994年3月	岩井市史編さん委員会	(執筆担当部分・論文名) 第2章「町・村」のうち「村明細」(p165-303)、「村定」(p304-332)、「村役人」(p333-377)、「若者組」(p398-403)、第4章「戸口」の「人別改」(p531-598)、「五人組帳」(p598-620)、「異動」(p620-626)
2. 『岩井市史資料 近世編Ⅱ』	共著	1995年8月	岩井市史編さん委員会	第6章「貯穀・救済」(p431-474)、第8章「家」(p559-620)
3. 『日本農書全集 第39巻(地域農書四)』	共著	1997年8月	農山漁村文化協会	『深耕録』の翻刻・現代語訳・解題(p5-88)、編者：佐藤常雄・徳永光俊・江藤彰彦
4. 『日本農書全集 第67巻(災害と復興二)』	共著	1998年4月	農山漁村文化協会	『凶年違作日記・附録』の翻刻・現代語訳・解題(p259-340)、編者：佐藤常雄・徳永光俊・江藤彰彦
5. 『近世地域社会論』	共著	1999年1月	岩田書院	「寛政八年百姓相続方仕法と村社会一質地請戻をめぐる幕府法と在地慣行一」(p249-301)、編者：渡辺尚志
6. 『鹿沼市史資料編 近世1』	共著	2000年3月	鹿沼市史編さん委員会	第1部第2章Ⅰ「富岡村」(p161-187)、Ⅱ「見野村」(p189-191)、Ⅲ「玉田村」(p195-200)、第6章Ⅱ「下南摩村」(p651-707)、Ⅲ「西沢村」(p709-717)
7. 『芳賀町史史料編 近世』	共著	2000年3月	芳賀町史編さん委員会	第3章「近世村落の成立」(p121-179)、第10章「地主経営と諸営業」(p727-846)、第12章第1節「幕末期の社会情勢」(p981-1017)
8. 『岩井市史 通史編』	共著	2001年3月	岩井市史編さん委員会	第Ⅲ編近世第1章第3節「ムラ統制の諸相」(p461-486)、第2章「ムラとイエの仕組み」(p487-550, p578-646)
9. 『鹿沼市史資料編 近世2』	共著	2002年3月	鹿沼市史編さん委員会	第1部第1章Ⅰ「押原村」のうち「阿部文造家文書」(p43-44)、「金子昭彦家文書」(p141-150)、「戸張町自治会所蔵文書」(p217-221)、「福聚通郎家文書」(p223-225)、「福田靖家文書」(p227-254)、「宝蔵寺文書」(p255-257)、Ⅱ「下府所村」のうち「福井辰次家文書」(p366-373)

10. 『芳賀町史通史編 近世』	共著	2003年3月	芳賀町史編さん委員会	第2章「近世村落と村の編成」(p75-120)、第3章「草分け百姓と前地」(p121-171)、第7章第3節「在郷町の商業」(p416-434)、第10章「地主経営と諸営業」(p571-671)
11. 『近世関東の地域社会』	共著	2004年8月	岩田書院	「江戸時代中後期北関東における百姓の生業の多様と選択」(p127-180)、編者：白川部達夫
12. 『江戸時代村社会の 存立構造』	単著	2004年12月	御茶の水書房	博士論文の公刊(p1-497)
13. 『北上町史史料編 II』	共著	2005年2月	北上町史編さん委員会	第3部第7章「農業と開発」(p103-164)
14. 『北上町史通史編』	共著	2005年3月	北上町史編さん委員会	第3部第3章第1節「百姓の開発と保全」「川辺の農業と土地利用」(p270-291)、第2節「百姓相続とムラ社会」(p301-312)
15. 『鹿沼市史叢書10 鹿沼の絵図・地図』	共著	2005年3月	鹿沼市史編さん委員会	「塩山村田地・屋敷絵図」(p89-90)、「縦山村往還絵図」(p91)、「楡木町・半田村山境争論絵図」(p97)、「佐目村他4か村境界論裁許絵図」(p102-103)
16. 『鹿沼市史通史編 近世』	共著	2006年3月	鹿沼市史編さん委員会	第1部第4章第2節1「潰百姓の再興と報徳仕法」(p168-173)、第2部第1章第3節「川の利用」(p231-257)、第4節1「山林が生み出す稼ぎと富」(p262-285)
17. 『身分的周縁と近世 社会1 大地を拓く 人びと』	共著	2006年12月	吉川弘文館	「前地」(p83-113)、編者：後藤雅知
18. 『鹿沼市史普及版 かぬまの歴史』	共著	2007年3月	鹿沼市史編さん委員会	「鹿沼麻と加園石灰」(p106-108)、「川の利用」(p110-111)、「山間部の材木生産と炭焼き」(p112-113)、「朝鮮種人参と人参役所」(p114-115)、「鹿沼宿の商人と職人」(p120-121)、「繰り返される市場争論」(p124-125)
19. 『景観形成の歴史地 理学』	共著	2008年3月	二宮書店	「秩父の絹織物産業に関する一考察－江戸期から近代へ－」(原田洋一郎氏との共著、平野執筆部分p127-135)、編者：石井英也
20. 『氏家町史史料編 近世』	共著	2009年3月	さくら市史編さん委員会	第2章「新田開発の進展」(p77-97)、第4章第1節「村役人と自治」(p307-318)、第6章「産業の発達と流通」(p407-548)、第11章「郷土への眼差し」のうち「田夫真手兵衛無手物語」(p905-936)

21. 『日本農業史』	共著	2010年11月	吉川弘文館	V「近世」(p143-253)、編者：木村茂光
22. 『西方町史』	共著	2011年7月	西方町史編さん委員会	第3編第1章第5節「新田開発の進展」(p140-143)、第3章第1節「田畑からの生産」・第3節「川漁の隆盛」・第4節「水車業と酒造業」・第5節「広がる百姓の諸稼ぎ」(p157-163, p171-185)、第4章第2節「栃木町との売買・取引」・第3節「水の道としての川利用」(p194-202)、第5章「村社会と百姓の暮らし」(p208-232)
23. 『日本中世政治文化論の射程』	共著	2012年3月	思文閣出版	「沼の生業の多様性と持続性－江戸時代の下野国越名沼を対象に－」(p230-254)、編者：山本隆志
24. 『相馬市史6 史料編Ⅲ 近世2』	共著	2013年3月	相馬市史編さん委員会	第4章「平場の生業」(p669-775)
25. 『週間日本の歴史34 江戸時代7 村人は豊かだったのか』	共著	2014年3月	朝日新聞出版	「百姓の生業」(p16-19)、編者：渡辺尚志
26. 『講座東北の歴史 第2巻 都市と村』	共著	2014年10月	清文堂出版	「北上川下流域における村の暮らしと百姓相続」(p197-221)、編者：平川新・千葉正樹
27. 『日本史学のフロンティア2 列島の社会を問い直す』	共著	2015年2月	法政大学出版局	「江戸時代における百姓生業の多様性・柔軟性と村社会」(p213-248)、編者：荒武賢一朗・太田光俊・木下光生
28. 『近世下野の生業・文化と領主支配』	共著	2018年7月	岩田書院	「江戸時代下野国の川漁－鬼怒川・那珂川を中心に－」(p39-67)、編者：下野近世史研究会
29. 『生活工芸双書 大麻』	共著	2019年5月	農山漁村文化協会	「江戸時代後期における鹿沼麻の流通－在村麻商人による麻と魚肥との相互流通」(p124-127)、共著者：篠崎茂雄他4名
30. 『気候変動から読み直す日本史6 近世の列島を俯瞰する－南から北へ』	共著	2020年11月	臨川書店	「北関東下野における天保の凶作・饑饉と在地社会の応答」(p151-186)、共著者：佐藤大介他4名
31. 『気候変動から読み直す日本史1 新しい気候観と日本史の新たな可能性』	共著	2021年1月	臨川書店	第四章第一節「時代の概観」(p161-171)、第七章第三節第二項「生業と暮らしの地域比較 東日本」(p285-290)

32. 『相馬市史5 史料編Ⅱ 近世1』	共著	2021年3月	相馬市史編さん委員会	第4章「藩政」第3節「藩の農政と飢饉」・第4節「日記と御用留」(p374-476)全999頁、共著者：斎藤善之・泉正人・藤原一良・平野哲也・天野真志・阿部綾子・早田旅人・齋藤悦正・畑井洋樹・安田容子 別冊資料集『近世相馬の日記』 「日記」(文政九年河村家日記)(p239-289)全289頁、共著者：泉正人・齋藤悦正・平野哲也
33. 『大学的栃木ガイドーこだわりの歩き方』	共著	2023年3月	昭和堂	「下野国の農と百姓の元気」(p91~108)
(学術論文(欧文)) 1.				
(学術論文(和文)) 1. 江戸時代中後期における村方地主の特質ー下野国芳賀郡東水沼村岡田家を中心にー	単著	1993年12月	『年報日本史叢』1993, 筑波大学歴史・人類学系, p75-101 (査読有)	
2. 江戸時代中後期北関東農村における名主の動向ー下野国芳賀郡を中心にー	単著	1995年5月	『関東近世史研究』38号, 関東近世史研究会, p5-29 (査読有)	
3. 江戸時代中後期における前地の存在形態ー下野国芳賀郡給部村を中心にー	単著	1996年4月	『地方史研究』260号, 地方史研究協議会, p5-30 (査読有)	
4. 江戸時代後期における湊町商人の経営展開ー越後国岩船郡塩谷町野沢家を事例にー	単著	1996年12月	『社会文化史学』36号, 社会文化史学会, p65-89 (査読有)	
5. 元禄期下野国における屋敷者の逃散についてー芳賀郡給部村の場合ー	単著	1997年5月	『日本史学集録』20号, 筑波大学日本史談話会, p27-39 (査読有)	
6. 江戸時代中後期北関東平場農村における山林利用ー下野国芳賀郡主穀生産地帯における山林資源の商品化ー	単著	1999年8月	『歴史と文化』8号, 栃木県歴史文化研究会, p16-35 (査読有)	
7. 江戸時代後期における鹿沼麻の流通ー在村麻商人による麻と魚肥の相互流通ー	単著	2001年3月	『かぬま歴史と文化』6号, 鹿沼市史編さん委員会, p51-74	

8. 江戸時代北関東農村における米穀の流通・加工ー下野国芳賀郡の地域経済・資源活用と村方地主ー	単著	2003年8月	『歴史と文化』12号, 栃木県歴史文化研究会, p59-76 (査読有)
9. 伸縮自在の江戸の村・変幻自在の百姓の生業ー「農村荒廃」期の関東になぜ多数・多様の農書は生まれたかー	単著	2003年8月	『現代農業増刊号21世紀は江戸時代開府400年 まち・むら・自然の再結合』農山漁村文化協会, p235-245
10. 地域史と近世農書	単著	2004年3月	『農業史研究』38号, 日本農業史学会, p15-25 (査読有)
11. 江戸時代後期における村の自律性と百姓協同ー鹿沼地方の村々を事例としてー	単著	2004年12月	『鹿沼史林』44号, 鹿沼史談会, p1-16 (査読有)
12. 「荒廃」の地域像ー「農村荒廃」現象から見える百姓の生業選択と資源活用	単著	2009年8月	坂井俊樹・浪川健治編『ゆれる境界・国家・地域にどう向き合うか』梨の木舎, p165-184
13. 地震湖の湖底からの被災村落の復活ー五十里湖の決壊と五十里村の百姓による村づくりー	単著	2013年8月	『歴史と文化』22号, 栃木県歴史文化研究会, p48-76 (査読有)
14. 自治体史編纂と下野近世史研究の深化	単著	2014年5月	『関東近世史研究』75号, 関東近世史研究会, p27-44 (査読有)
15. 「第一部 食料と肥料」総論	単著	2016年9月	渡辺尚志編『生産・流通・消費の近世史』勉誠出版, p37-41
16. 関東主穀生産地帯における米の生産・流通と消費の諸相	単著	2016年9月	渡辺尚志編『生産・流通・消費の近世史』勉誠出版, p43-81
17. 関東内陸農山村における魚肥の消費・流通と海村との交易	単著	2016年9月	渡辺尚志編『生産・流通・消費の近世史』勉誠出版, p83-117
18. 近世村落における百姓の生業選択ー社会環境への対応の視点からー	単著	2016年10月	『新しい歴史学のために』289号, 京都民科歴史部会, p39-55 (査読有)

19. 干鰯と農業	単著	2017年12月	『歴史と地理 日本史の研究』259号, 山川出版社, p30-41
20. 下野国思川水系・流域の生業世界	単著	2017年12月	浪川健治・古家信平編『別冊環23 江戸－明治 連続する歴史』藤原書店, p168-182 (査読有)
21. 江戸時代北関東における食と農－下野国の主穀の生産・流通・消費を中心に－	単著	2019年3月	『農業史研究』53号, 日本農業史学会, p15-26 (査読有)
22. 下野国の百姓による常総内陸水運網拡充構想－文化・文政年間における小貫万右衛門の奔走－	単著	2021年3月	『地方史研究』413号, 地方史研究協議会, p24-44
(紀要論文)			
1. 江戸時代後期における地域資源の活用と生業連関－下野国都賀郡大芦川・荒井川流域を事例に－	単著	2007年3月	『栃木県立文書館研究紀要』11号, 栃木県立文書館, p26-43
2. 江戸時代における川利用の多様性と諸生業の連関－西方郷と小倉川－	単著	2011年3月	『栃木県立文書館研究紀要』15号, 栃木県立文書館, p63-89
3. 江戸時代における温泉と村経済－下野国那須郡小口温泉を事例に－	単著	2012年3月	『栃木県立文書館研究紀要』16号, 栃木県立文書館, p45-69
4. 地震湖に沈んだ村の災害対応－天和地震後の五十里村による生業と暮らしの再建－	単著	2013年3月	『栃木県立文書館研究紀要』17号, 栃木県立文書館, p25-52
5. 江戸時代の下野における野生獣の防除と利用	単著	2014年3月	『栃木県立文書館研究紀要』18号, 栃木県立文書館, p85-104
6. 江戸時代後期下野国における旱害と水利秩序－明和七年・八年と文政四年の大旱魃の事例から－	単著	2016年3月	『栃木県立文書館研究紀要』20号, 栃木県立文書館, p31-57

7. 『田夫真手兵衛無手物語』の世界－江戸時代後期下野国における世相と百姓論－	単著	2017年3月	『栃木県立文書館研究紀要』21号, 栃木県立文書館, p43-61	
8. 五十里洪水の記憶－下野国における享保八年八月洪水と社会の対応－	単著	2018年3月	『栃木県立文書館研究紀要』22号, 栃木県立文書館, p57-77	
9. 江戸時代後期の村の災難と百姓の対応－下野国都賀郡助谷村「糸川政之助日記」にみる火事・病気・盗難－	単著	2022年3月	『栃木県立文書館研究紀要』26号, p17-39	
10 下野国那須郡小口村大金重貞が目指した那珂川舟運の発展－一七世紀中期の那珂川上流域の新河岸建設・舟運網整備関連史料－	単著	2022年3月	『常陸大宮市史研究』5号, 常陸大宮市, p33-50	
11 江戸時代における下野国の藺草生産と荒物売買－下都賀郡小野寺村を中心として－	単著	2023年3月	『栃木県立文書館研究紀要』27号, p19-46	
(辞書・翻訳書等)			(執筆担当項目)	
1. 『近世藩制・藩校大事典』	共著	2006年3月	大石学編、吉川弘文館	「榎本藩」(p353)、「大宮藩」(p355)、「鹿沼藩」(p356)、「上田藩」(p356)、「佐野藩藩校」(p363)、「富田藩」(p363-364)、「皆川藩」(p365-366)、「真岡藩」(p367-368)、「茂木藩」(p368)、「山川藩」(p368-369)
2. 『江戸幕府大事典』	共著	2009年12月	大石学編、吉川弘文館	「岩鼻陣屋」(p574-575)、「東郷陣屋」(p778-779)、「吹上陣屋」(p786-787)、「藤岡陣屋」(p790)、「真岡陣屋」(p806-807)、「八木沢陣屋」(p808-809)
3. 『近世人の事典』	共著	2013年4月	深谷克己・須田努編、東京堂出版	「本百姓」(p96-99)、「水呑百姓」(p100-101)、「名子・被官」(p102)
4. 『日本生活史辞典』	共著	2016年10月	木村茂光・安田常雄・白川部達夫・宮瀧交二編、吉川弘文館	「赤子養育仕法」(p4)、「入百姓」(p48)、「困糶・貯穀」(p118)、「換金作物」(p159)、「甘蔗」(p161-162)、「甘薯」(p162-163)、「牛馬耕」(p179-180)、「社倉」(p306)、「惣作」(p389)、「堆肥」(p407)、「帳箱」(p439)、「手作」(p457)、「農書」(p512-513)、「虫送り」(p635)、「ゆい」(p663)

(報告書・会報等)				
1. 荒川村贛川における 集落機能と生業形態 の変化	共著	1991年2月	『歴史地理学調査報告』5号, 筑波大学 歴史・人類学系歴史 地理学教室, p31-51	河野敬一氏と共著
2. 戦国期定峰における 村落社会の変容	単著	1994年3月	『歴史地理学調査報告』6号, 筑波大学 歴史・人類学系歴史 地理学教室, p17-27	
3. 秩父絹の生産と流通 に関する一考察	単著	1996年3月	『歴史地理学調査報告』7号, 筑波大学 歴史・人類学系歴史 地理学教室, p61-73	
4. 江戸時代中後期の地主 小作関係	単著	1996年3月	『広報はが』491 号, 芳賀町役場	
5. 新刊案内「渡辺尚志 編『近世米作単作地 帯の村落社会』」	単著	1996年8月	『地方史研究』262 号, 地方史研究協議 会, p115-117	
6. 江戸時代後期の山林 利用	単著	1999年2月	『広報はが』526 号, 芳賀町役場	
7. 「船木明夫報告」コ メント	単著	1999年10月	『関東近世史研究』 47号, 関東近世史研 究会, p31-36	1998年度関東近世史研究会大会報告 批判
8. 荒廃復興期野州農村 における小百姓経営 と質地慣行	単著	1999年11月	『地域社会と近代化 シンポジウム会報』 地域社会と近代化シ ンポジウム運営委員 会, p2-6	
9. 鹿沼麻の九十九里商 い	単著	2000年7月	『文書館だより』28 号, 栃木県立文書 館, p2-3	
10. 「舟橋明宏報告」コ メント	単著	2001年2月	『歴史学研究月報』 494号, 歴史学研究 会, p2	2000年度歴史学研究会大会近世史部 会報告批判
11. 書評「長谷川伸三 『近世後期の社会と 民衆』」	単著	2001年12月	『日本史研究』472 号, 日本史研究会, p71-79	
12. 江戸時代の村方の馬 喰	単著	2002年2月	『広報はが』562 号, 芳賀町役場	
13. 江戸時代大芦川・荒 井川流域における地 域資源の活用	単著	2003年7月	『歴文だより』48 号, 栃木県歴史文化 研究会, p3	

14. 家の相続と村一百姓 潰れ株相続につき願 書一	単著	2003年8月	『古文書の世界』 (NHK学園通信制 サブテキスト), 日 本放送協会学園, p74-76	
15. 市町村合併と文書・ 記録の保存・利用	単著	2004年4月	『歴文だより』51 号, 栃木県歴史文化 研究会, p3-4	
16. 書評「多和田雅保 『森本家の手作経営 と農業技術』を読ん で」	単著	2004年4月	『飯田市歴史研究所 年報』3, 飯田市歴 史研究所, p173-175	
17. 新刊紹介「井上定幸 著『近世の北関東と 商品流通』」	単著	2006年4月	『歴史評論』672 号, 歴史科学協議 会, p109-110	
18. 白狐と稲荷信仰一江 戸時代の村方文書に みる稲荷信仰の盛り 上がり一	単著	2006年4月	『歴文だより』59 号, 栃木県歴史文化 研究会, p2-3	
19. 「深耕録」と稲々軒 免水	単著	2006年4月	『広報さくら』26 号, さくら市役所, p15	
20. 根本新田の開発と移 住者たち	単著	2007年5月	『広報さくら』50 号, さくら市役所, p15	
21. 「栗原健一報告」コ メント	単著	2007年10月	『関東近世史研究』 63号, 関東近世史研 究会, p34-39	2006年度関東近世史研究会大会報告 批判
22. 馬とともにあった百 姓の暮らし	単著	2008年8月	『広報さくら』80 号, さくら市役所, p15	
23. 書評「渡辺尚志著 『惣百姓と近世村 落』」	単著	2010年1月	『史学雑誌』119編1 号, 史学会, p74-82	
24. 溜池で養鯉	単著	2010年7月	『文書館だより』48 号, 栃木県立文書 館, p4-5	
25. 天明の凶作・飢饉体 験	単著	2011年3月	『学校教材史料集』 7号, 栃木県立文書 館, p7-15	
26. 農耕彫刻が語る江戸 時代の稲作	単著	2011年3月	『学校教材史料集』 7号, 栃木県立文書 館, p20-27	
27. 亀和田村から楡木追 分にかけて	単著	2011年3月	『栃木県歴史の道調 査報告書第二集 日 光例幣使道・奥州道 中』栃木県教育委員 会, p78-80	

28. 御用金を拒否する10か村起請文	単著	2011年8月	『文書館だより』50号, 栃木県立文書館, p1
29. 地域経済の要、江戸時代栃木町の役割	単著	2012年3月	『学校教材史料集』8号, 栃木県立文書館, p2-12
30. 何が変わった? 地租改正	単著	2012年3月	『学校教材史料集』8号, 栃木県立文書館, p24-34
31. 江戸時代那須郡の獣	単著	2012年3月	『文書館だより』51号, 栃木県立文書館, p7
32. 災害と社会—人々は自然の猛威にどう向き合ったか—	単著	2012年7月	『歴文だより』84号, 栃木県歴史文化研究会, p1
33. 天和地震・五十里洪水と五十里村	単著	2012年7月	『歴文だより』84号, 栃木県歴史文化研究会, p4
34. 文書でもの言う神や獣	単著	2012年8月	『文書館だより』52号, 栃木県立文書館, p4-5
35. 江戸時代の川利用の多様性と諸生業—下野国の西方郷と小倉川—	単著	2012年11月	『古文書通信』95号, NHK学園, p10-17
36. 朝鮮通信使と下野国	単著	2013年3月	『学校教材史料集』9号, 栃木県立文書館, p21-28
37. 那須郡の生糸、横浜から海外市場を目指す!	単著	2013年3月	『学校教材史料集』9号, 栃木県立文書館, p46-56
38. 歴史のなかの女性	単著	2013年7月	『歴文だより』88号, 栃木県歴史文化研究会, p1-2
39. 池の鯉をめぐる百姓間の確執と和解	単著	2013年8月	『文書館だより』54号, 栃木県立文書館, p1
40. 古文書にすむ動物たちとの対話—人と動物のつきあいに見る下野の江戸時代—	単著	2013年11月	栃木県立文書館第25回企画展図録, p1-40
41. 狐がもたらす禍福	単著	2014年1月	『歴文だより』90号, 栃木県歴史文化研究会, p1-2
42. 鉄砲は何に使う? 江戸時代の鉄砲の役割とその変化	単著	2014年3月	『学校教材史料集』10号, 栃木県立文書館, p10-17

43. 黒羽藩家老が知った「蝦夷地変事」	単著	2014年3月	『学校教材史料集』10号, 栃木県立文書館, p18-25
44. 下野の百姓が捉えた二つの大噴火	単著	2014年3月	『文書館だより』55号, 栃木県立文書館, p7
45. 近世北上川下流域における資源の利用と保全－開発と災害対応を中心に－	単著	2016年3月	『東北近世史』40号, 東北近世史研究会, p23-24
46. 書評「本城正徳著『近世幕府農政史の研究』」	単著	2016年4月	『歴史学研究』943号, 歴史学研究会, p57-60
47. 歴史の見方を転換する－読み直される時代像－	単著	2016年7月	『歴文だより』100号, 栃木県歴史文化研究会, p2
48. 近世の温暖・乾燥期の農村事情－下野国の事例から－	単著	2017年12月	『高分解能古気候学と歴史学・考古学の連携による気候変動に強い社会システムの探索 Newslettere』No. 15, 総合地球環境学研究所, p4
49. 小林紀子氏報告「武州金沢藩と下野の村々」を聞いて	単著	2018年11月	『歴文だより』109号, 栃木県歴史文化研究会, p2
50. 白狐出生の件御尋ねにつき書付	単著	2019年4月	『古文書を読む 解説ノート』28号, NHK学園, p26-31
51. 倹約につき村法規定書	単著	2019年4月	『古文書を読む 解説ノート』28号, NHK学園, p62-69
52. 地域経済の要としての江戸時代の豪農	単著	2019年6月	『広報 常陸大宮』177号, 常陸大宮市, p17
53. 近世における内陸農村と海村の地域間交流と生業連関	単著	2020年3月	『科学研究費補助金基盤研究C研究成果報告書』p1-150
54. 御用御奉公につき由緒書付	単著	2020年4月	『古文書を読む 解説ノート』29号, NHK学園, p13-20
55. 用水につき新田より詫書付	単著	2020年4月	『古文書を読む 解説ノート』29号, NHK学園, p21-26
56. 一一産業（2019年の歴史学界－回顧と展望「近世」）	単著	2020年5月	『史学雑誌』第129編第5号, 史学会, p131-133

57. 新刊紹介「川田純之『徘徊する浪人たち近世下野の浪人社会』」	単著	2021年1月	『歴文だより』第118号, 栃木県歴史文化研究会, p4	
58. 阿部昭先生の研究と学問	単著	2022年7月	『歴史と文化』第31号, 栃木県歴史文化研究会, p9-12	
59. 『常陸大宮資料叢書1 上伊勢畑御用留』	共著	2023年1月	常陸大宮市史編さん委員会	「安政2年御用留」(p54~67) 「元治2年御用留」(p120~127)を翻刻。コラム「百姓の期待を集める御立山」(p68~69)執筆
60. 下野から見た那珂川水運・内川廻しー江戸・太平洋への百姓の眼差し	単著	2023年2月	『特別展 那珂川ヒストリーー水と共に生きた人々』, 水戸市立博物館, p5-10	
(国際学会発表)				
1.				
(国内学会発表)				
1. 北関東農村における前地の存在形態	個人	1993年5月	第9回日本史談話会大会, 筑波大学	
2. 江戸時代中後期北関東農村における名主の動向	個人	1994年10月	第27回関東近世史研究会大会, 國學院大学	
3. 江戸時代後期北越後塩谷湊における酒造業の展開ー塩谷町庄屋野沢家の経営を中心にー	個人	1995年12月	社会文化史学会冬季例会, 東京家政学院大学	
4. 第31回関東近世史研究会大会船木明夫報告に対する批判報告	個人	1999年1月	関東近世史研究会月例会, 法政大学	
5. 荒廃復興期野州農村における小百姓経営と質地慣行	個人	1999年6月	地域社会と近代化シンポジウム第8回, 宇都宮市東コミュニティセンター	
6. 2000年度歴史学研究会近世史部会大会舟橋明宏報告への批判報告	個人	2000年9月	歴史学研究会近世史部会例会, 東京大学史料編纂所	
7. 地方文書の調査・保存・活用	個人	2000年12月	栃木県歴史文化研究会史料保存セミナー, 宇都宮市総合コミュニティセンター	
8. 江戸時代後期における鹿沼麻の流通ー在郷麻商人による麻と魚肥との相互流通ー	個人	2002年6月	第4回流通市場論研究会, 早稲田大学	

9. 江戸時代中後期における百姓の生業の多様と選択ー下野国芳賀郡を事例としてー	個人	2002年12月	社会経済史学会関東部会例会, 早稲田大学
10. 地域史と近世農書	個人	2003年4月	2003年度日本農業史学会大会, 鹿児島大学
11. 江戸時代大芦川・荒井川流域における地域資源の活用	個人	2003年8月	第13回栃木県歴史文化研究会大会, 栃木県立博物館
12. 書評報告「渡辺尚志・長谷川裕子編『中世・近世土地所有史の再構築』」	個人	2005年11月	歴史学研究会日本中世史部会・日本近世史部会合同例会, 新宿区中央図書館
13. 国文学研究資料館「地域社会と豪農・名望家」共同研究会山崎圭・山本英二報告へのコメント	個人	2006年3月	国文学研究資料館アーカイブズ系共同研究会, 国文学研究資料館
14. 第39回関東近世史研究会大会栗原健一報告に対する批判報告	個人	2006年12月	関東近世史研究会月例会, 法政大学
15. 書評報告「渡辺尚志『豪農・村落共同体と地域社会ー近世から近代へ』」	個人	2008年1月	近世フォーラム東京例会, 早稲田大学
16. 自治体史編さんと下野近世史研究の深化	個人	2012年3月	関東近世研究会企画例会「関東近世史研究と自治体史編纂」, 栃木県立博物館
17. 天和地震・五十里水と五十里村	個人	2012年8月	第22回栃木県歴史文化研究会大会, 栃木県立博物館
18. 民衆思想研究会須藤千裕報告・栗原祐斗報告に対するコメント	個人	2014年8月	第79回民衆思想研究会, 國學院大學栃木学園教育センター
19. 江戸時代下野における人と野生鳥獣の関係史	個人	2014年9月	第5回下野近世史研究会, 宇都宮大学
20. 地震湖の発生・決壊と被災村落の復興ー近世下野の百姓・村の災害対応力ー	個人	2014年11月	近世史フォーラム東京例会, 立正大学

21. 近世北上川下流域における資源の利用と保全－開発と災害対応を中心に－	個人	2015年8月	東北近世史研究会，宮城県松島町活魚の宿
22. 江戸時代北関東における主穀の生産・流通・消費	個人	2017年7月	日本農業史学会シンポジウムプレ研究会・食と農の研究会第1回，筑波大学東京キャンパス
23. 江戸時代北関東における食と農－主穀の生産・流通・消費を中心に－	個人	2018年3月	日本農業史学会2018年シンポジウム「食と農の地域史」，京都大学
24. 下野国東部の百姓の内陸水運拡充構想	個人	2018年7月	第57回近世史サマーセミナー，ニューサンピア栃木
25. 書評報告「木下光生『貧困と自己責任の近世日本史』に学んで」	個人	2018年10月	近世史フォーラム東京例会，東京大学
26. 江戸時代下野国の米作をとりまく諸環境	個人	2022年5月	国立歴史民俗博物館共同研究「日本食物文化史の分野横断的な研究と展示手法の再構築」，国立歴史民俗博物館
(演奏会・展覧会等)			
(招待講演・基調講演)			
1. 江戸時代下野国芳賀郡における百姓の生業と地域経済	個人	2006年11月	東洋大学特別展「辻善兵衛家文書と北関東の酒造業」記念講演会，東洋大学
2. 江戸時代の鹿沼における山・川の利用と生業連関	個人	2007年4月	平成19年度鹿沼史談会総会記念講演会
3. 江戸時代の下野の百姓生業と村社会	個人	2008年11月	宇都宮大学附属図書館特別企画講演会
4. 近世近代の北上川下流域における川沿い耕地と災害対応	個人	2012年12月	東北学院大学アジア流域文化研究所学術公開シンポジウム「大震災を越えてⅡ」
5. 江戸時代の百姓の鉄砲と平和－身近な歴史から現代を考える－	個人	2013年4月	平成25年度栃木県立宇都宮商業高等学校定時制課程創立記念講演会

6. 五十里洪水の記憶－自然の猛威と社会の対応－	個人	2016年11月	栃木県立文書館開館30周年記念シンポジウム「災害を乗り越えた下野の人々」
7. 佐野藩の「城」の創出と城附領の編制	個人	2021年1月	甲南大学公開講座「江戸寛政期『堀田正敦』の才覚を解き明かす」
8. 江戸時代の越名沼をめぐる生業と資源利用	個人	2022/7月	安蘇史談会・佐野市・佐野市文化協会共催令和4年度公開講座「第38回安蘇の風土と歴史」
9. 大金家文書からみる那珂川の舟運－下野国北部における那珂川舟運拡充計画－	個人	2022年11月	令和4年度那須与一伝承館企画展「奥州道中－大田原と街道と宿場－」講演
10. 下野から見た那珂川水運・内川廻し－江戸・太平洋への百姓のまなざし－	個人	2023年2月	水戸市立博物館特別展「那珂川ヒストリー－水と共に生きた人びと－」特別講演会
11. 消費と生業からみる下野国の百姓の活力－江戸時代中後期における百姓の暮らしぶりの変化－	個人	2023年5月	2023年度足利市文化財愛護協会総会講演会
(受賞(学術賞等))			

研 究 活 動 項 目

助成を受けた研究等の名称	代表, 分担等の別	種 類	採択年度	交付・受入元	交付・受入額	概 要
(科学研究費採択)						
1. 江戸時代中後期北関東農村における小前百姓の経済活動	代表	奨励研究	1998年度	日本学術振興会	230千円	
2. 近世関東農村における市場経済と農家経営	代表	特別研究員奨励費(PD)	2000～2002年度	日本学術振興会	3600千円	
3. 学術図書『江戸時代村社会の村立構造』	代表	研究成果公開推進費	2004年度	日本学術振興会	2400千円	
4. 天和日光地震・五十里洪水と被災村落の百姓協同・生業選択－近世百姓の災害対応力－	代表	奨励研究	2013年度	日本学術振興会	500千円	

5. 譜代小藩堅田藩の基礎的研究ー地域社会の変容と藩政の展開ー	分担	基盤研究C	2014～ 2015年度	日本学術 振興会	600千円	
6. 近世における内陸農村と海村の地域間交流と生業連関	代表	基盤研究C	2016～ 2018年度	日本学術 振興会	2470千円	
7. 江戸定府大名堀田氏の所領統治ー地域社会と行政機構の相関モデルの構築ー	分担	基盤研究C	2017～ 2019年度	日本学術 振興会	4550千円	
8. 研究者ネットワークによる巨大災害被災地での歴史文化環境再生の研究	分担	基盤研究B	2019～ 2021年度	日本学術 振興会	2000千円	
9. イエとムラの連続性から見た都市近郊農業の再評価	分担	基盤研究C	2020～ 2022年度	日本学術 振興会	1950千円	
(競争的研究助成費獲得(科研費除く))						
(共同研究・受託研究受入れ)						
(奨学・指定寄付金受入れ)						
(学内課題研究(共同研究))		—		—		
(学内課題研究(各個研究)) 1. 近世内陸農村と海村における地域間交流と生業連関	代表	特別奨励 研究助成	2015年度	常磐大学	282千円	
(知的財産(特許・実用新案等))	—			—	—	